

# 中川理

京都工芸繊維大学大学院教授 専門：建築史

## 風景と建築をめぐる歴史と現在

京都造形芸術大学 通信教育部 建築デザインコース 特別講義 A.L.Series 2010 vol.01

### 【中川理 略歴】

1955年、横浜市生まれ。1988年、京都大学大学院博士課程修了。工学博士。日本学術振興会特別研究員を経て、1992年より京都工芸繊維大学助教授。2003年より同大学院教授。専門は、近代建築史、都市史。著書に、『偽装するニッポン』、『重税都市—もうひとつの郊外住宅史』（都市計画学会論文奨励賞）、『京都 モダン建築の発見』、『風景学—風景と景観をめぐる歴史と現在』など。共編著に、『近代建築史』、『東山／京都風景論』、『京・まちづくり史』など。

### 【講義内容】

建築の評価は、作る側（建築家）だけでできるものではない。

建築を利用したり体験したりする側からの評価も重要なはずだ。最近では、その評価として「景観」としてすぐれているかどうか判断されることが多くなった。

しかし、「景観」がすぐれているって、どうやってわかるのだろう。

そもそも、風景のようなものは、きわめて個人的な価値判断であるはずだ。実際に、「景観」をめぐるっては、いろいろな矛盾があちこちで起こっている。

「まがいもの」が横行したり、過剰な演出がもてはやされたり、現実を隠すために偽装したり。場合によっては、建築の本質がゆがめられてしまうような事態も起こっている。

建築が風景としてどのように捉えられてきたのか、捉えられるべきなのかを、様々な事例から考えてみよう。

6.26(sat) 18:30~20:00(18:00開場) NA403教室

京都造形芸術大学瓜生山キャンパス

定員100名(当日先着順) 入場無料

主催：京都造形芸術大学通信教育部建築デザインコース お問い合わせ：京都造形芸術大学

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 Tel. 075-791-9122 (代表) <http://kirara.cvyber.kyoto.art.ac.jp/>

■電車 京阪出町柳駅より叡山電車乗り換え  
→叡山電車「茶山」駅より徒歩10分

■バス 地下鉄烏丸線北大路駅より市バス204系統  
京阪出町柳駅より市バス上終町3系統  
京阪三条駅より市バス5系統  
阪急河原町駅より市バス5系統・上終町3系統  
JR京都駅より市バス5系統  
→「上終町京都造形芸術大学前」下車

※本学には駐車場がありません、車でのご来場はご遠慮下さい。

